

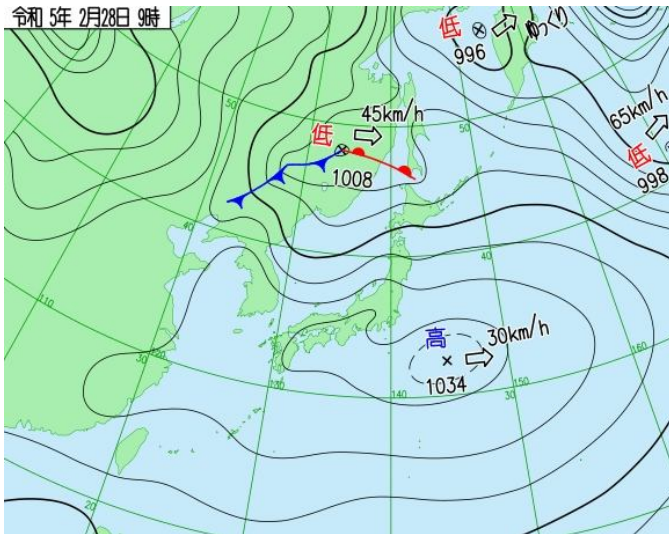
## 「スギ花粉の来襲(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

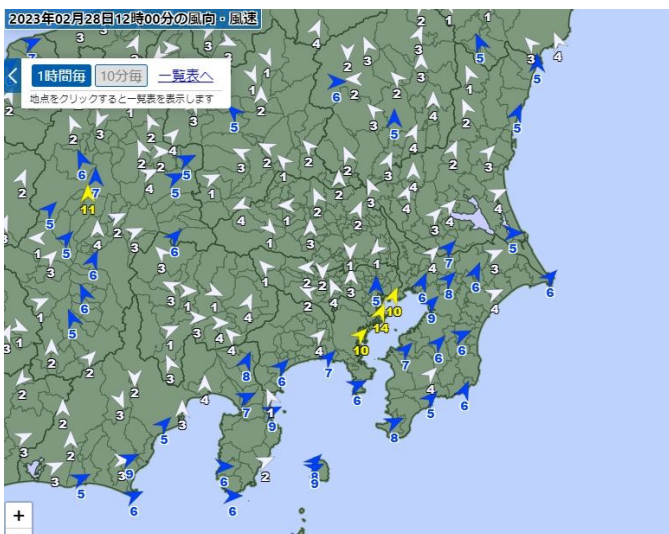
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

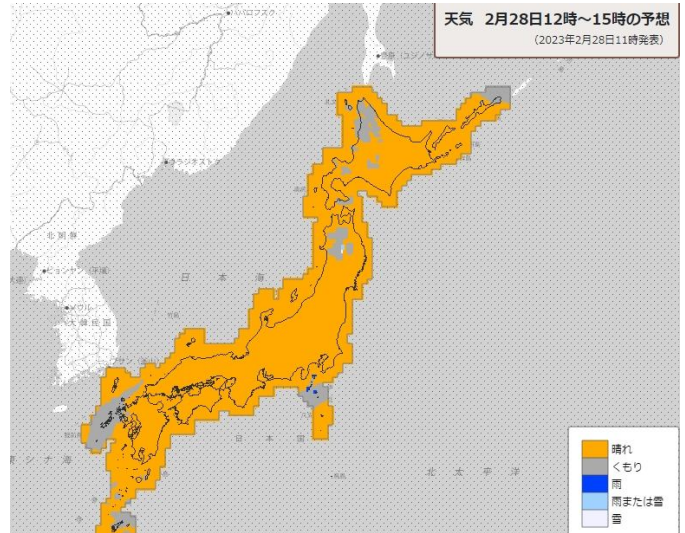
今日は1年生も6年生も目をこすっている子どもが多かった。それもそのはず、今年のスギ花粉がものすごい量で、今日は特に多く飛ぶと予想されていたのだ。



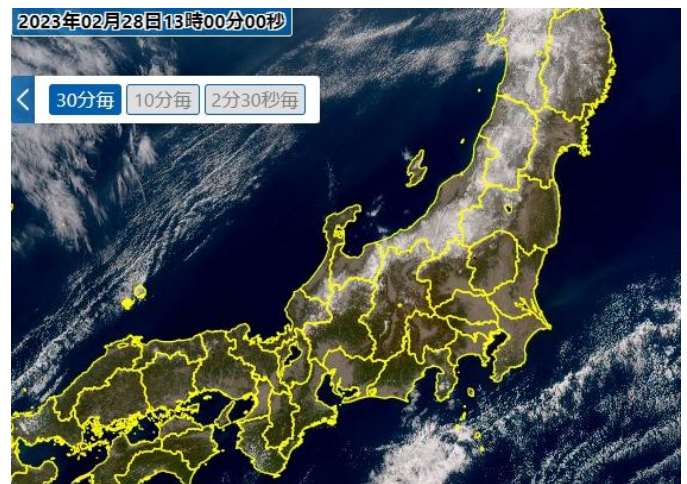
今日は太平洋に高気圧、沿海州(ロシア)に前線を伴った低気圧がある、典型的な「南高北低の気圧配置」だった。こうなると太平洋から低気圧に向かって暖かい風が入り、気温も上がる。スギ花粉がよく飛ぶ条件が揃っていた。



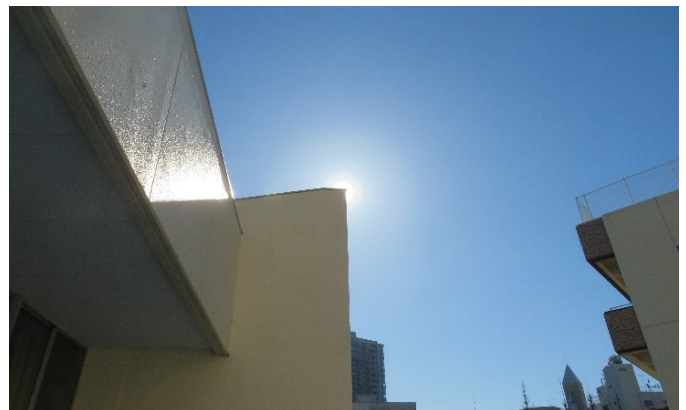
正午のアメダス(風向・風力)を見ると、東京付近にはやや強い南風が吹いていたとわかる。神奈川県西部の杉林から花粉が流れ込みやすい状態だった。



「天気分布予想」全国的に晴れの場所が多い。東京だけでなく、九州や中国地方でもかなりスギ花粉が飛んだようだ。



衛星画像(可視画像)を見ても、関東地方はほぼ晴れていて地表が見えている様子がわかる。こういう日にまず観測されるのが「花粉光環」だ。



「花粉光環(かふんこうかん)」というのは、主としてスギ花粉が大量に飛散している時に、その微粒子の光学的効果で、太陽の周囲に色のついた光環が見える現象だ。「大気光学現象」の一種で、光球(太陽の本体)を建物の角で遮蔽すると、撮影可能である。